



2023年5月8日

各位

会社名:フューチャーベンチャーキャピタル株式会社
(コード:8462 東証スタンダード市場)
代表者名:代表取締役 金 武 偉
問合せ先:財務経理部長 西田 賢一郎
(TEL:075-257-2511)

当社代表取締役の条件付き進退表明に関するお知らせ

当社代表取締役 金武偉より、全株主様宛の声明を掲載いたします。

記

フューチャーベンチャーキャピタル株主様、

はじめに

私は、できることなら、今般のDSG1社様による株主提案に賛成したかったです。

どこの株主や社員、そして取引先が、経営者退陣を目指す株主提案を「毎年」望むでしょうか？単純に考えたとき、大株主が経営に参画すれば、経営政策の安定化が期待できます。

しかし、本株主提案に限っては、私はついに賛成できませんでした。

株主提案に反対した理由

私は当社の取締役全員とも何度も議論を重ねましたが、当社取締役会としては、全会一致で、以下2つの理由から本提案に反対します。

1つ目に、本提案は当社への批判に終始しています。本来、株主提案を出すなら、ましてや過半数取締役を派遣して経営権を掌握したいならなおさら、当社経営に関する新ビジョンや代替政策を提案すべきところです。それがない以上、本提案が可決したとしても、当社の企業価値向上及び株価向上の展望は描けません。

2つ目の理由として、DSG1社様の政策や立場の一貫性欠如があります。

澤田大輔氏という方が率いるDSG1社は、過去1年半という短期間のあいだに、松本直人前社長に対する支持と反対、そして私に対する支持と反対の方針を複数回往復されています。昨年4月15日には、私の株主提案に反対し、前経営陣を支持する旨のプレスリリースを出されました。その後、前経営陣に対する支持を取り下げ、私の株主提案を支持くださったものの、今はこうして私に事実上の退陣要求をされています。



取締役はたったの一人でも経営への影響力が絶大です。それを7人も送り込もうとする本提案の発案者によるここまでの移ろいやすさでは、取締役同士の信頼を損ない、社員の動揺も招き、集中力とスピード感のある経営政策の実行はまず不可能です。

私の進退表明

昨年に私が出した株主提案は、一部経営メンバーの続投をほのめかして相手の分断を図るような「戦略選挙」にしませんでした。たとえ過激で勝率が下がろうとも、取締役全交替という「解散総選挙」にこだわりました。

理由は、経営理念が一致せず、一貫性もない取締役同士で結果を出せるほど、経営は甘いわけがないからです。

同じ理由と信条から、もし今回の総会でDSG1社様による株主提案が可決し、株主提案候補者が1人でも選任された場合、株主様による私と私のこうした経営方針への不信任を謙虚に受け止め、私は静かに退任します。

昨年の総会の意味

私は、いまのFVCに必要なのは「尖った経営者」だとおもいます。嘘くさいほどロマンある目標をたて、並外れた実行力で新しい未来を切り開く経営者です。

私による目線の高い経営が「ギャンブル」にみえて怖気づく人や、何かを「できない理由」や「やらない理由」だけを雄弁に語る人、そして「中長期」を大義名分に低空飛行を続ける経営体質とは、昨年の総会で、個人株主みんなの力で終止符をうったはずです。

いまの当社は誰かと経営権闘争している場合ではありません。黒字企業の買収を重ねに重ね、世界中の年金運用者にとって当社株式を「もたざるリスク」銘柄にするのに集中すべきです。

長い社歴のなか過去最高売上わずか約10億円の当社が、売上30億円規模且つ黒字の某再生資源・エネルギー開発企業の買収案件を、本来なら本日（5月8日）15時に株主の皆様にご報告できていたはずが、本株主提案により保留せざる得ない事実は開示済のとおりです（参照：5月8日付「単独株式移転による持株会社設立に関するお知らせ」）。

株価のためにできること

長年ないがしろにされた個人株主が、選択肢を与えられた途端、全取締役会メンバーにレッドカードをつきつけた昨年の歴史的総会は、私のこうしたビジョンと実行力への期待だったのか。

それとも、7年続いた前経営陣への不満の蓄積にすぎなかったのか。

あの総会で声をあげた個人株主の真意に疑念がかけられた以上、株価のために今われわれができることは、いまいちど声をあげることだと思います。



議決権を行使いただければと存じます。

採決結果がどうであれ、株主様が明確に意思表示をしてくれ、総会後に発足する経営陣と株主様の強固な結びつきが示され、株式相場はそれを好感するに違いありません。

2023年5月8日

フューチャーベンチャーキャピタル株式会社

代表取締役 金武偉